

迷

五年

画数 9
筆順

メイ
まよひう

成り立ち



八方に道が分かれている道の形を表した「米」と、道を進む意味の「辵」とを組み合わせて作った字です。分かれ道が多いので、どの道を進んだらよいか、分からなくて「迷う」ことを表した字です。

今は、道にかぎらず「どうしたらよいか分からなくて迷う」という意味に使われます。

〔米は、漢音はベイだが、呉音はメイ、またはマイ〕

使い方

▽ぼくは、最近流行している「迷路」の遊びをしました。大きな部屋に、わざと迷うように道が作ってあって、正しい道を選ぶと部屋を通り抜けられるのですが、たくさんある間違った道を選ぶと、行き止まりになってしまふのです。友だち数人といっしょに入りましたが、とても愉快でした。

▽昔、ギリシャのクレタ島という島に、迷宮があったという伝説があります。その迷宮の奥に怪物が住んでいたのを、テーセウスという英雄が退治し、アリアドネというお姫様の助けて迷宮から抜け出したといひます。

熟語例

▽迷路（迷いやすい複雑な道。また、わざと迷いやすいように作った道）

▽迷宮（作り方が複雑で、一度入ると迷ってしまつて出られない宮殿。また、そこから、事件などが複雑で解決がつかないことを「迷宮入り」といひます。）

▽迷信（人を迷わす、間違つた信仰）

▽迷惑（他人がしたこと、いやなおもいをする。こと。もとは、どうしたら良いか迷うこと。）

綿

五年

画数 14
筆順

綿
わた

成り立ち



「白い絹の布」のことを「帛」と言ひます。字は「白い布」という意味の字です。その「帛」と「糸」とを組み合わせて作った字です。

さなぎに食い破られた繭は、糸が引き出せませんので、煮て切り開き、両手で方形に引きのばして方形の串にさします。一見、帛のように見えますから「綿」と言ひました。今で言う「真綿」のことです。今では「棉」（今は綿と書く）の木から取れる「綿」の意味に使われますので、本当の「綿」は「真綿」と呼ばれるわけです。

綿はせんいがつながっていますので、つながる「意味」にも使われます。〔例〕連続、綿綿。

また、「ふわふわした感じのもの」を言うのに使ひます。〔例〕綿雲、綿毛、海綿。

使い方

▽昔と違って、今では色々な化学繊維がありますが、やはり木綿や麻のような天然繊維は、はだになじみやすく、良いものです。とくに、下着は木綿に限ります。はだの弱い人は、化学繊維には、かぶれることがあります。

▽転んで手をすりむいたので、脱脂綿にオキシフルをつけて、消毒しました。そのあと、別の脱脂綿で、ヨードチンキをつけておきました。ぼくは、しょっちゅう、あちこちにけがをするので、家には色々な薬を用意してあるのです。

熟語例

▽木綿（棉の実からとれた糸や、それで作った布）
▽連続（長く続いているようす。「故郷を思う気持ちは連続として今も消えない」などというふうに、つかいませ。）

▽綿綿（「連続」と同じ意味）

▽綿雲（綿のようにふわふわした感じの雲）

▽綿毛（綿のようにふわふわした毛）

▽海綿（綿のようなうすの海の生き物）